

パラグアイ内政・外交報告（2022年4月分） 政治情勢

1 内政

（1）新型コロナウイルス関連

ア 新型コロナウイルスワクチンの4回目接種の開始

4月4日より、50歳以上の高齢者、患者と接触するなど感染リスクの高い医療従事者及び12歳以上の免疫不全者又は免疫抑制者を対象に、新型コロナウイルスワクチンの4回目接種が開始された。

イ マスク着用義務の廃止及び入国制限の緩和

4月18日、新型コロナウイルス流行による衛生緊急事態宣言に係る大統領令の効力が停止された。同決定に基づき、国内におけるマスク着用義務が廃止された。ただし、パラグアイ政府は、公共交通機関や人が密集しやすい場所でのマスク着用を引き続き推奨している。また、4月19日、パラグアイ入国者に対する入国制限措置が新たに緩和され、ワクチン接種が完了している者については新型コロナウイルス陰性証明書の提示が不要となった。

（2）2023年大統領選挙関連

ア アセベド外相の次期大統領選出馬に向けた動き

4月3日付当地Ultima Hora紙は、アセベド外相が来年4月の大統領選挙への出馬に向けた政治活動を開始すべく、然るべき時期に外相を辞任する意向であると報じた。4月6日、アセベド外相はラジオ番組で、各種事務を整理した後、辞任する意向である旨発言した。4月29日、アセベド外相は辞表を提出し、同日外務省において退任式が行われた。同外相は在任期間を振り返り、新型コロナウイルスワクチンや医薬品の緊急確保及び貿易の維持のための外交的対応を行ったと述べ、チリとの経済補完協定の締結、在インド・パラグアイ大使館の開設、メルコスールの特別体制（注：パラグアイに対し認められている、マキラ制度、原産地比率及び例外品目に係る規定のこと）の延長など、世界とパラグアイの経済協力が進展し、二国間関係が深化したことを強調した。

イ 野党連合に向けた事前合意書への署名

4月22日、野党の12政党及び10の政治運動は、2023年4月に実施される総選挙を視野に入れ、コロラド党（ANR）に対抗するため、2023全国連合（CN2023）結成のための事前合意書に署名した。同連合の大統領・副大統領候補は12月18日に実施予定の党内選挙で決定される。同合意書の署名には、左派連合（FG）以外の政党及び政治運動が参加した（主な参加政党：リベラル党（PLRA）、二月革命党（PRF）、国家十字軍党（PCN）、国民会合党（PEN）、愛国党（PPQ）、Hagamos党（PPH）、A党（PDA）、進歩民主党（PDP）、民衆愛国運動党（PMPP）、拡大戦線党（PFA）、キリスト教民主党（PDC）、パラグアイTekopuahu党（PPTP）等）。

ウ 左派連合（FG）の大統領候補選出

4月24日、マルティネス上院議員（ルゴ政権時の厚生大臣）が左派連合の大統領候補に選出された。同議員は、今後は対抗馬であったペレイラ上院議員とともに、進歩主義セクター及び民衆の意向を反映させつつ前進していく意向を示した。また、2023年での勝利に向けた連帯を呼びかけるとともに、変革と希望のメッセージとともに、各県を巡りキャンペーンを強化していくと述べた。

2 外交

（1）パラオ共和国との外交関係樹立

4月1日、パラグアイ外務省は、同日、パラグアイ国連代表部において、パラオ共和国との外交関係樹立のための共同声明への署名を行った旨のプレスリリースを発出した。

（2）パラグアイ・アルゼンチン外相会談

4月8日、アスンシオンにおいてパラグアイ・アルゼンチン外相会談が実施された。アセベド外相は、アルゼンチンによる国境の開放を評価しつつ、「アルゼンチンはクロリンダーファルコン間の橋梁を建設する意思を有し、二国間には更に、ピラーループエルト・カノ間、チャコーウマイタ間、プレシデンテ・フランコープエルト・イグアス間のプロジェクトがある。」旨述べた。また、同外相は、パラグアイはクロリンダーファルコン間の橋梁建設のための費用を負担する用意がある旨述べるとともに、CAFがピラール・フォルモサ間の橋梁建設費用の負担に関心を持っていると述べた。

カフィエロ外相は、5年ぶりにアスンシオンで開催された外相会談は、両国にとって非常に有益なものであったと強調した。同外相は、昨年両国間の貿易は史上最高を記録したとしつつ、今後はこれを継続するとともに、文化的、政治的関係を更に強化し、物理的及びテクノロジー面での連結性を強化していく必要があると述べた。また、同外相は、アルゼンチンによるマルビナス諸島の主権の平和的要求において、パラグアイが常にアルゼンチンの側にいることを評価すると述べた。

さらに、両外相は「パラグアイ・アルゼンチン間の航空サービスに関する協定」に署名した。

（3）トーレス伯法務・治安大臣のパラグアイ訪問

4月12日、トーレス伯法務・治安大臣がパラグアイを訪問した。同大臣はアブド・ベニテス大統領を表敬し、組織犯罪対策のための二国間の戦略的協力関係の強化につき会談し、両国が合同で進めている犯罪対策オペレーション「A Ultranza PY」の取組を強化していくことで一致した。

大統領表敬後、トーレス大臣はゴンサレス内務大臣と会談した。ゴンサレス内相は、航空機の両国国境通過を管理するためのレーダー設置のため、ブラジルの航空当局と協力を進めていると述べた。また、国境地域におけるインテリジェンス・センターの設置が既に取り進められていると述べるとともに、今後、ペドロ・ファン・カバジェロ市、プンタ・ポラ市にある両国の合同事務所にパ

ラグアイ側の人材配置を行っていくと表明した。

(4) ゴンサレス内務大臣の移民と安全保障に関する閣僚会議への出席

4月19～20日、パナマにおいて移民と安全保障に関する閣僚会議が開催された。同会議には西半球の約20か国の外務大臣や安全保障大臣等の閣僚が参加した。パラグアイからはゴンサレス内務大臣及びハラ・オカンポス駐パナマ・パラグアイ大使が出席し、米国からはブリンケン国務長官及びマヨルカス国土安全保障長官が出席した。

(5) アブド・ベニテス大統領のコロンビア訪問

4月22日～24日、アブド・ベニテス大統領はコロンビアを訪問した。23日、ドゥケ・コロンビア大統領と会談し、両首脳は、両国間の友好関係を再確認するとともに、麻薬密輸及び国際組織犯罪対策における協力といった、二国間及び地域の優先課題への対応を推進することで一致した。ウクライナ情勢に関しては、敵対行為の即時停止及び紛争の解決を促進する目的で、国連及び米州機構の枠組みで承認された決議を支持するという両国の共通の立場を確認した。また、今次訪問では、「人権に関する対話と協力のための二国間メカニズム設立に関する協定」及び「パラグアイ共和国とコロンビア共和国の間の運転免許証の相互承認に関する協定」が署名された。

24日、アブド・ベニテス大統領は、コロンビアの企業家と会合し、パラグアイの継続した成長及び食糧生産国としての可能性を強調した。また、クリーンで再生可能なエネルギーの生産及び地域の連結性を高めるインフラへの投資、さらに、国内・国際投資に対する予測可能性及び法的保護の存在を強調した。

(了)